**秋季研究会 第２分科会** （研究の柱）チームマネジメントと教育予算

分科会テーマ

～　教職員の共感と学校予算の可視化　～

担当：第５ブロック

|  |
| --- |
|  |

【定義】チーム･･･「校内の教職員」

マネジメント･･･「組織に成果をあげさせるための仕組み」

教育予算･･･「学校全体の経理」

　　　　共感･･･互いを理解し共に行動することで得られる感覚である。共感することで、視点が切り替わり、物事の本質を直視できるようになる。

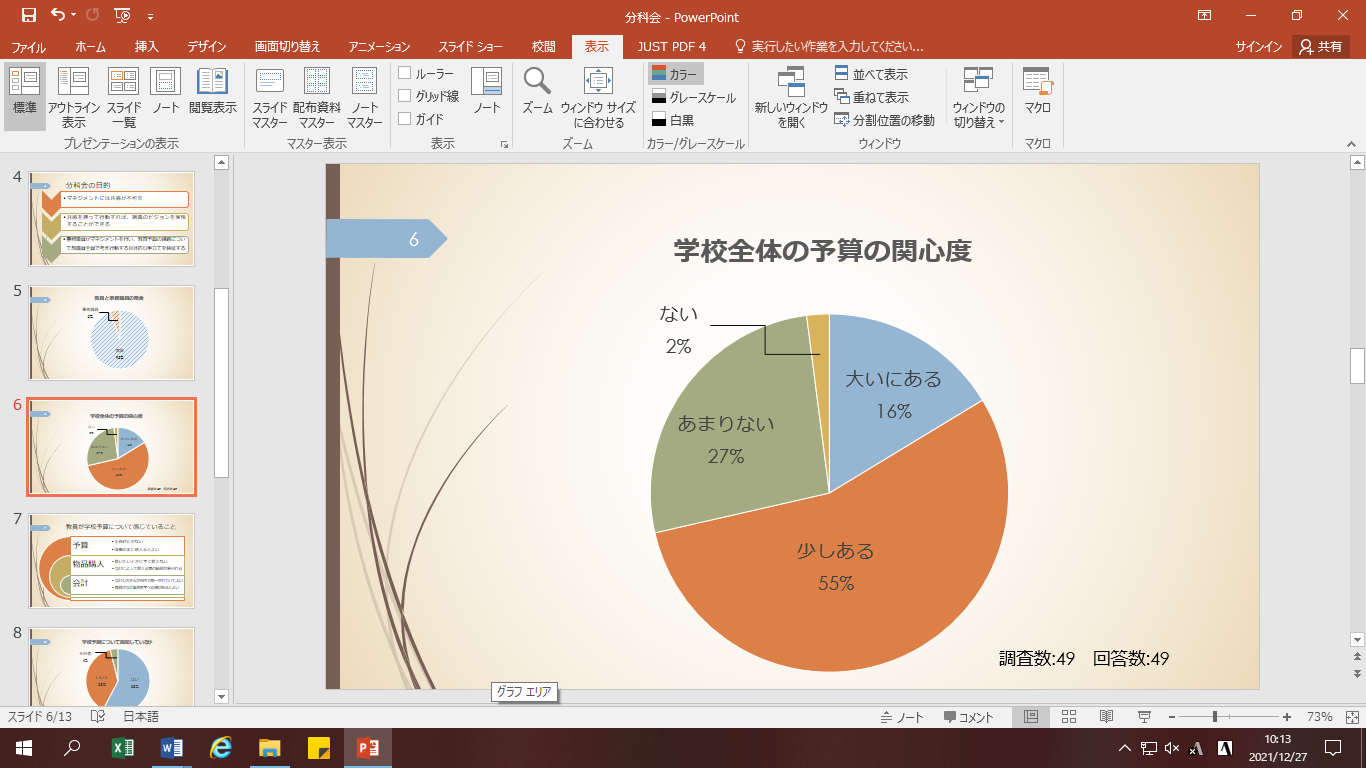
可視化･･･見えないものを見える形で表すことである。可視化することで、目に　見える形となり、実感が湧く。

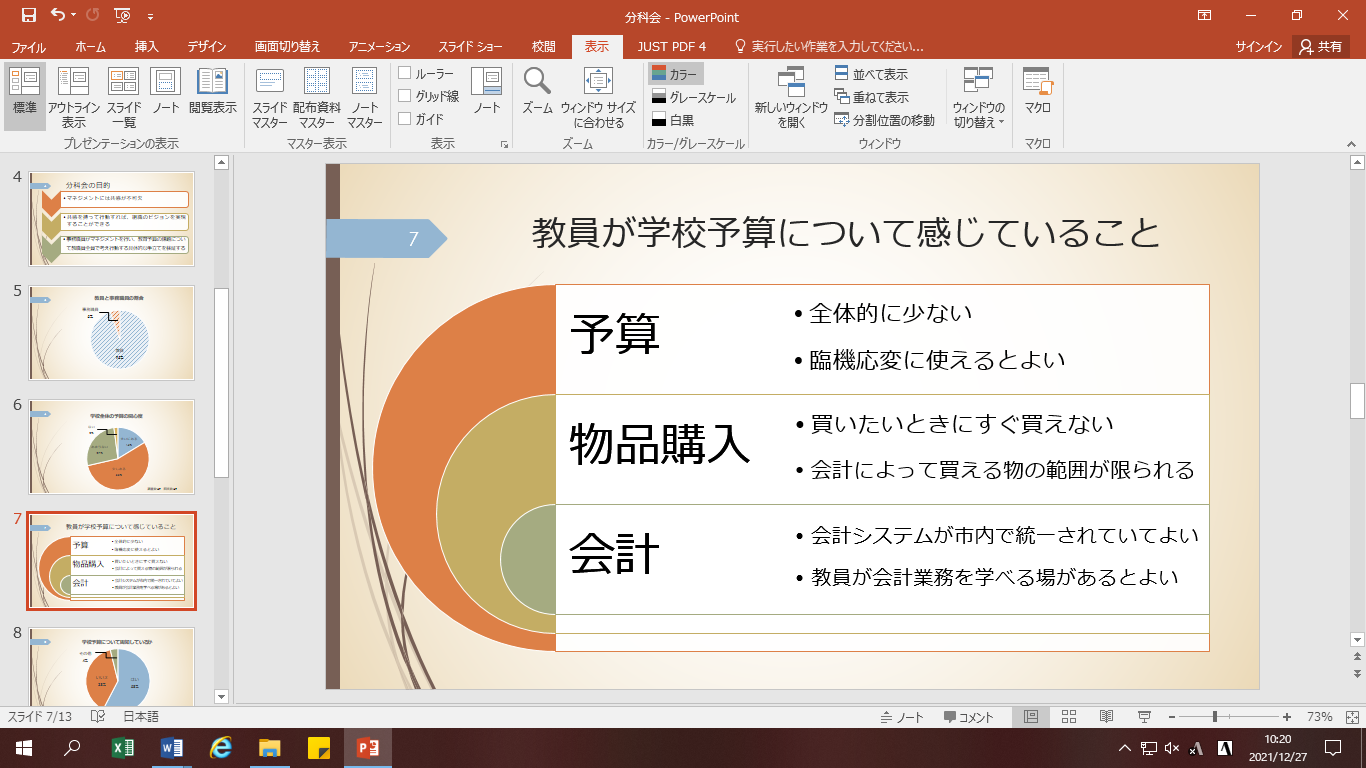
１ 目的

　学校の予算は、種類が多く、学校特有の予算もあるため、予算の全体像や全体の金額が見えにくい。そのため、経理や予算に関して、教員によって理解や関心の度合いに違いがあると感じる。

　教職員全員が予算に関心を持ち、学校予算について考え行動することで、効果的な予算執行を目指す手立てについて考える。

２ 内容

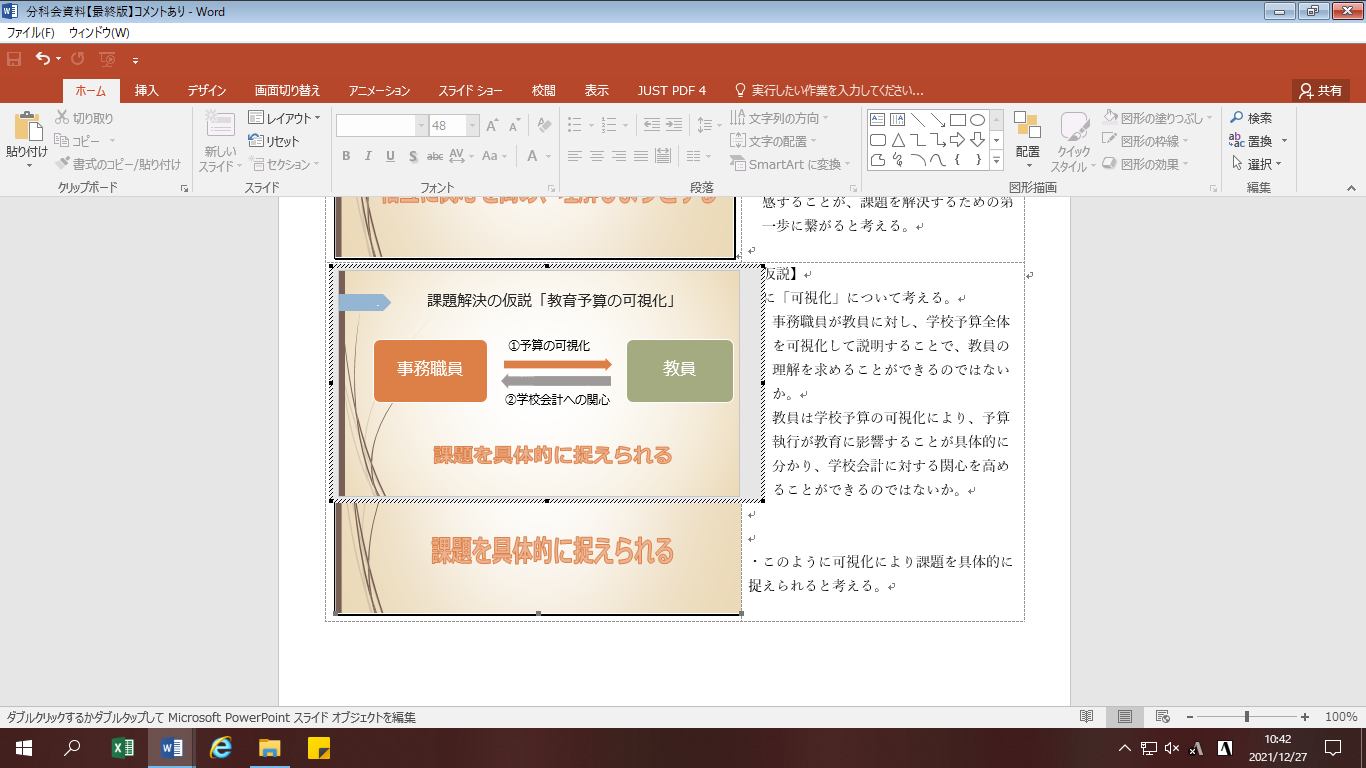
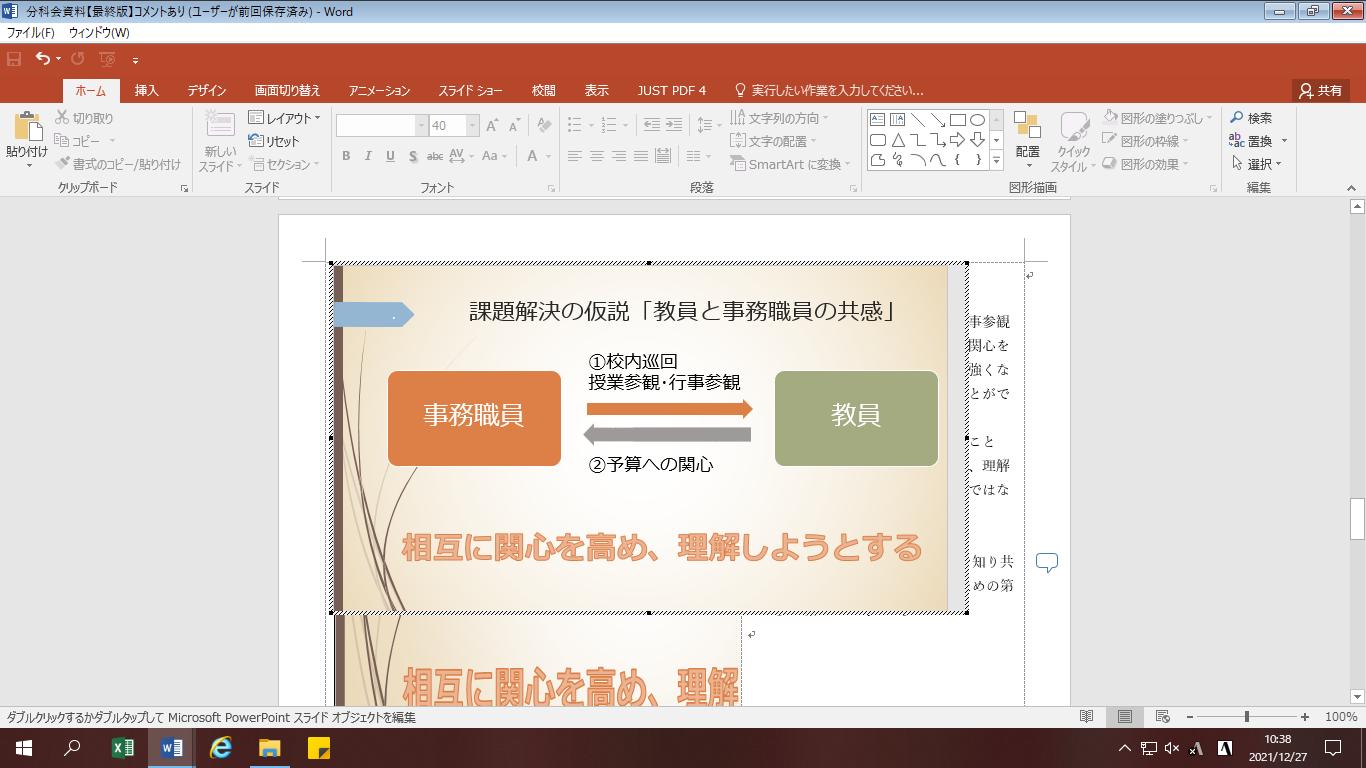
　まず、学校の現状として、教員が校内で多数の割合を占めているのに対し、事務職員は概ね一人である。教員は教育、事務職員は児童生徒の直接指導以外の分野を専門としているため、担当している経理の数や種類にも違いがあり、予算に対する理解や関心の度合いに違いが生まれるのではないか。

実際に、教員が学校予算に対して、どのように感じているか、嶺南の教員を対象にアンケートを行った。予算に関心があるのは７割程度であり、予算に関心があっても、注文から納品までに時間がかかる、予算によって購入できる物品の範囲が限られているなどの理由から、購入を諦めていることもあることがわかった。その結果、予算をうまく使うことができず、今必要なものが後回しになることもあると考えられる。

また、嶺南の事務職員を対象に、学校予算の周知についてのアンケートを行ったところ、年度初めの職員会議等で、教職員に予算の周知を行っている学校は約半数程度だった。

これらの現状から、教員は予算の全体像が分からないため、計画的に予算を執行することが難しく、使えるはずの予算をうまく使うことができていない。また、どこの予算を使ってよいか分からず、必要な物品があっても、要望をあげにくい状況になっている。それに対して、事務職員は、授業や学校行事に必要な予算がどの程度あるのか、教員からの要望がなければ把握しにくいという課題がある。課題の解決には、教員と事務職員がお互いに寄り添える、相談しやすい環境を作ることが効果的な予算執行のためには必要と考える。

次に、課題解決のポイントとなる共感と可視化について具体的に考える。

【共感】①事務職員が、校内巡回や授　　業・行事参観等で、教育環境や教育課程への関心を高めることで、教員との連携が強くなり、協力して予算に向き合うことができるのではないか。②事務職員が教育予算を周知することで、教員が教育予算に向き合い、理解と関心を深めることができるのではないか。このようにお互いの立場や状況を知り共感することが、課題を解決するための第一歩に繋がると考える。

【可視化】①事務職員が教員に対し、学校予算全体を可視化して説明することで、教員の理解を求めることができるのではないか。②教員は学校予算の可視化により、予算執行が教育に影響することが具体的に分かり、学校会計に対する関心を高めることができるのではないか。このように可視化により課題を具体的に捉えられると考える。

　以上のことをふまえて、自校の実情に合わせた予算一覧表を作成してみよう。また、教員と事務職員、双方向の共感を得るための具体的な方法を考えてみよう。